

平成 30 年度 熊本市児童館運営審議会 議事録（要旨）

1 日時 平成 30 年 8 月 22 日（水） 14 時 00 分～16 時 00 分

2 場所 東部公民館ホール

3 委員 出席

竹下 徹 委員（委員長）

中村 光伴 委員

松村 篤彦 委員

小川 英聖 委員

加藤 貴司 委員

家入 淳 委員

富田 昌枝 委員

欠席

伊藤 大介 委員

松本 泰子 委員

宮本 博規 委員

山口 温代 委員

奥村 栄子 委員

4 市出席者

興梠（健康福祉局子ども未来部部長）

松井（子ども未来部首席審議員兼子ども支援課長）

遠藤（西原公園児童館 館長）

北里（託麻児童館長）

小島（秋津児童館長）

村上（東部児童館長）

松永（西部児童館長）

田中（花園児童館長）

山田（幸田児童館長）

菊地（南部児童館長）

田端（清水児童館長）

福田（龍田児童館長）

5 配布資料

・熊本市児童館運営審議会 資料

・平成 29 年度児童館活動報告（別冊 1）

・児童館利用者アンケート結果（別冊 2）

6 次第

1. 開会

2. 熊本市挨拶（健康福祉局子ども未来部部長）

3. 委員・職員紹介

4. 視察

5. 報告・審議

（1）平成 29 年度 事業報告・利用状況について

（2）平成 30 年度 運営方針及び事業計画について

（3）各児童館からの報告

（4）児童館利用者アンケートの実施結果について

6. 閉会

挨拶、委員・職員紹介、視察は省略

5・報告審議

(1) 平成 29 年度 事業報告・利用状況について

子ども未来部首席審議員兼子ども支援課長（以下、子ども支援課長と言う）より資料に基づき報告

(2) 平成 30 年度 運営方針及び事業計画について

子ども支援課長より資料に基づき報告

<<質疑応答>>

（竹下委員長）

平成 29 年度の実績について報告いただきましたが、年間利用者数でいくと平成 28 年度から 20% くらい利用率が伸びています。2 割弱というところかなり高い伸び率だと思いますが、延びた要因はどのように見ていらっしゃいますか。

（子ども支援課長）

平成 27 年度までが通常で、平成 28 年度は地震の影響で減り平成 29 年度に原状に戻ったのではないかと考えます。

（中村委員）

利用者数についてですが、地震で施設等も被害があったかと思います。これがどのくらい復旧して、このような伸びになっているのでしょうか。

（子ども支援課長）

資料 4 ページに参考として施設の被害状況について記載しております。避難所として公民館・児童館が利用されているところがあり、長いところでは 9 月まで避難所でした。公民館自体が運営をストップしていた影響もあります。東部公民館は、施設の一部に被害があり、避難所にもできない状況でした。

（中村委員）

その施設の被害について、平成 27 年度と比べたらどのくらい復旧していますでしょうか。また、今後施設整備等をしっかりとできればもっと利用者数は伸びていくとお考えでしょうか。

（子ども支援課長）

児童館の施設は、ほぼ復旧は終了しております。西原公園児童館については今後工事を予定しています。

（西部児童館）

西部児童館は、児童館自体は地震による被害はありませんでしたが、外構部・その他の施設で天井の落下の危険性があるため、工事を予定しています。児童館自体は使えますが、工事の時は外構部・エントランスが使えなくなり、公民館自体が閉鎖となった場合には、児童館の利用者は激減するかと考えられます。

（加藤委員）

利用状況で、全体で平成 28 年度と比べて平成 29 年度は 20% くらい伸びているが、幸田児童館は、平成 28 年度は 23,395 人。これは地震があって平成 27 年度より落ちていると思う。しかし、平成 29 年度は 22,699 人で、平成 27 年度と比べて 97% と減っている。平成 28 年度は地震の影響もあり、全館で利用者は減っているし、平成 29 年度は全体で見ると伸びている。この違いは何でしょうか。

例えば、秋津児童館は被害が大きかったのか、平成 28 年度は 13,087 人、平成 29 年度は 25,738 人で倍くらいに伸びている。これをみれば、幸田児童館は、カウント方法が違っているのではないのでしょうか。夏祭り等のイベントをカウントしなかったりするのではないのか。データを見ると、全館共通のカウント方法でないと比較にならないが、幸田児童館は減少していることについて、何かお気づきの点はありませんでしょうか。

（幸田児童館）

おっしゃられたようにカウント方法に問題があるかもしれませんが、利用者は減っています。バザー等の関係で、大きなイベントがあれば、何百人単位で増えたり、その日の天気次第で、天気が悪いときは何百人単位で減ったりもします。担当者にも確認しましたが、原因は不明です。

もう一つ、要因として考えられるのは、近くに城南児童館があり、環境が良く利用者が通うようになったと聞いています。

（竹下委員長）

新規の利用者の人数は把握していらっしゃいますでしょうか。

（赤星：東部児童館）

新規の登録に関しては、通し番号をつけています。東部児童館では、今年度は 2000 人を超えています。各児童館でも通し番号をつけて把握はしていると思います。

（竹下委員長）

熊本市の児童館ではないのですが、他の自治体の児童館で既にお母さん達のグループが出来上がっていて、その中に新規で行くことに、もう一歩勇気が出ず、それがアクセスの阻害要因として働いていると聞いたことがあります。熊本市は新規の利用者はどうなのかなと思っていましたが、今の数を聞いて驚きました。

(子ども支援課長)

補足させていただきます。

児童館の利用者数については、熊本地震前にかかなり近づいてきているところですが、城南児童館や民間施設、保育園の待機児童はゼロでもあり、色々な利用場所が増えてきていますので、児童館の利用者数が右肩上がりにはいけないと考えています。色々な場所がありますので、そのようなところも利用いただきたいです。

(3) 各児童館からの報告

各児童館長より資料 別冊 1 に基づき平成 29 年度活動内容の報告

<<質疑応答>>

(松村委員)

大変色々な事業をされているので、興味深く聞かせていただきました。その中で、龍田児童館が突出して活動数が多いのですが、大変ご苦労があるのではないのでしょうか。その辺のところお聞かせいただけますか。

(龍田児童館)

こちらでも、報告の方法が一定ではなく、他の児童館でも同じような回数でされていると思います。龍田児童館が一つ一つ細かく掲載しておりますので、多いような印象がありますが、他の児童館でも同じように活動をしている状況です。

(松村委員)

報告の方法は共通していただいたほうがよい。龍田児童館のように細かく報告していただいたほうが、こちらとしても活動の内容が分かる。私としても色々なことをやっているのが分かります。逆に利用される方にも、このような広報活動をする、これだけの活動をしているので、合うところに来ていただければと思う。大変かとは思いますが、統一していただきたい。

それと、もう一点。報告の中で、小学生の学年別の利用を見ていたのですが、利用者の対象地域から見てどうなのかという点を、資料として準備していただければと思う。

どこの小学校がどのくらいの児童数がいて、どのくらいの割合で利用されているのかとか。その数が良い悪いとかではなくて、例えば今後児童館を建てるとなったときに、地域が違っていただ方がほうが良い等の参考資料になるのではないかと。そのような意味で、各地域で対象になる人数の割合等について数年に一度でも調べていただければと思う。

また、西原公園児童館は、学年別で見たら各学年 1000 人以上。一年生は少ないですが、なぜこんなに多いのか不思議に思う。西原公園児童館の地域を考えると、小学生は他の地域よりは人数が少ないのではないかと。と、言う事はその地域の遊び場が多くないので利用しているのではないかと考えています。

(4) 平成 30 年度 利用者アンケート実施結果報告

子ども支援課長より資料 別冊 2 に基づき報告

<<質疑応答>>

(中村委員)

各児童館の取組等の報告があり、特色ある活動をされていると思う。活動実績等については、一覧で利用者へ公表はされていますでしょうか。

(子ども支援課長)

審議会の資料等については、市のＨＰに掲載する予定としています。

(丸山：子ども支援課)

今まで掲載ありませんが、各児童館の活動については、本年 7 月より市の「結婚・子育て応援サイト」で、各児童館の児童館だより等を一覧で掲載をし始めました。

(中村委員)

先ほどのアンケート結果も伺って、抽選のものや、普段利用できないもの、地域にない活動等もあるかと思われました。また、他の児童館も行っていいということでしたので、各児童館の活動を一覧にし、利用者が選べるというような情報共有ができれば非常に便利なのではないか。

また、各児童館の取組、色々な特色についてもＰＲできるのではないか。

(子ども支援課長)

市のホームページ等色々な手段で、市民の方には広報していきたいと考えています。

(小川委員)

アンケートで未就園のお子さまがこれだけいるところで、来年はどうなるかなと心配している。来年度は、幼児教育の無償化があります。しかし、保育園や幼稚園、認定子ども園には枠がありますので、児童館のような施設で予算の大きな活動をしていただきたい。待機児童は 4 月 1 日ではゼロですが、それ以降はまた違い、施設によっても限りがあります。そのような方がこういった施設を万遍なく利用できるように、活動をいろいろな場面をお願いしたい。小学生は夏休み、冬休み、放課後等利用の時期が限られているかと思う。しかし、0.1.2 歳、入学前の方々は朝から利用できる。そのような方々が利用できる色々な活動を願いたい。

今後とも、各児童館の実情に合わせた活動をお願いしたい。

(家入委員)

先ほどの活動報告書を見させていただきまして、非常に素晴らしい活動をされている。

今、保護者の間で、子どもへの家庭教育力不足が非常に問題になっている。子ども達の情操教育を家庭内でするのが、非常に困難になっている。報告書を見させていただくと、このような活動等を利用させていただければ、家庭の中だけで悩むのではなくて、親御さんたちと繋がりもできて、料金的にも無料と変わらないので、広がっていけばと思う。また、広く宣伝ができればいい。我々 P T A としても、小学生はもちろん保護者の方が会員なので、P T A をツールとして利用していただいてもいい。

こういう活動を市がしている等の報告や児童館・公民館でこういう活動をしているなどを言っていただけると、会員さんに紹介ができるので、是非利用していただきたい。

(富田委員)

各児童館から様々な活動の報告していただきましたが、個々活動の参加の総人数等の記載があれば、大体の規模がより分かりやすいと思う。

もう一点、児童クラブ等の応募総数と実際の人数が比較できたら次年度の活動回数の目安になるかと思います。

(竹下委員長)

各委員から出された意見を集約いたします。

各委員から出た意見の一つは、情報共有の取り組みについて。

今、パンフレットやホームページは出ておりますが、熊本市の取組としては地域の社会資源を生かして各児童館の創意工夫した良い取組がされているという意見が出ておりますので、もっと情報を発信する必要があるのではないかという意見が一点目。

もう一つ。熊本市だけではなくて、後方支援として各関係機関に所属している委員からも情報をいただければ、情報発信ができるという意見でした。

もうひとつは、平成 30 年度からの課題としては、審議会での各児童館からの情報報告の仕方。全ての取組みで足並みを揃えるのは難しいが、ある程度同じ取組みの場合には、連携していただいて同じ基準で同じ方法での報告をお願いしたい。

最後になりますが、熊本市以外からも利用されているというところで、熊本市の取組みは、汗をかかれて利用者の方の満足度をあげていく事を意識されていると思う。次年度以降もこのような報告をお聞きしたい。

6. 閉会